



## 日産化学株式会社

2023年3月期 第1四半期決算説明電話会議

説明者

取締役常務執行役員 CFO 大門秀樹

2022年8月8日

1Q

前年同期比

- 売上高は、118億円増収(+25%)
- 営業利益は、54億円増益(+45%)
- 純利益は、51億円増益(+57%)
- **営業利益・経常利益・純利益は2年連続過去最高益を更新**

1Q

業績予想比

(2022年5月発表予想との比較)

- 売上高は、59億円上ぶれ
- 営業利益は、27億円上ぶれ
- 純利益は、27億円上ぶれ

株主還元の状況

- 自己株式取得 50億円完了(2022年5~6月、683千株)

業績予想の修正

- 2022年5月発表の上期及び通期業績予想を上方修正(p42参照)

| 4

**大門：**日産化学株式会社の大門でございます。皆様、ご多忙のところ、ご参加ありがとうございます。今回から、私が決算説明を担当いたします。よろしくお願い申し上げます。

それでは、説明会資料の4ページ、1Q決算サマリーからご説明いたします。

ここに記載の通り、1Qにつきましては、前年同期比売上高は118億円増収、営業利益は54億円増益、これは率にしますとプラス45%、純利益は51億円増益、プラス57%となっております。

1Qとしましては、営業利益、経常利益、純利益は2年連続過去最高益を更新となっております。

それから業績予想比でございますが、売上高は59億円の上ぶれ、営業利益では27億円の上ぶれ、率にしますとプラス約18%。純利益は同じく27億円の上ぶれ、率にしますとプラス24%となっております。

株主還元の状況でございますが、既にリリース等でご案内の通り、自己株取得につきましては、この5月から6月に50億円の取得を完了しております。

さらに、業績予想の修正を行っておりまして、5月発表の数字、上期および通期につきまして、後ほどご説明いたしますが、上方修正を本日発表しております。

## 2022年度1Q決算サマリー 前年同期比

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	465	583	+118 (+25%)
営業利益	119	173	+54 (+45%)
営業外損益	4	22	+18
経常利益	123	195	+72 (+58%)
特別損益	0	0	0
純利益※1	88	139	+51 (+57%)
EBITDA※2	142	197	+55
EPS(円/株)	61.73	98.13	+36.40
売上高営業利益率	25.5%	29.6%	+4.1pt
為替レート(円/ドル)	110	130	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	67	111	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

それでは、数字の確認ということで、5 ページでございます。

真ん中のところに、2022 年度 1Q 実績がございます。売上高で 583 億円、営業利益で 173 億円、営業外損益は後ほどご説明しますが 22 億円、経常利益で 195 億円、特別損益はゼロということで、したがって、純利益としましては 139 億円ということになります。

また、諸元でございますが、為替レートは 1Q では 130 円でございます。また、原油、JCC の部分でございますが、こちらは 111 ドルというのが、この 4-6 月の数字でございました。

## 2022年度1Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	524	583	+59
営業利益	146	173	+27
営業外損益	6	22	+16
経常利益	152	195	+43
特別損益	3	0	-3
純利益 <sup>※1</sup>	112	139	+27
EBITDA <sup>※2</sup>	-	197	-
EPS(円/株)	-	98.13	-
売上高営業利益率	27.9%	29.6%	+1.7pt
為替レート(円/ドル)	115	130	-
原油(JCC)(ドル/bbl) <sup>※3</sup>	88	111	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

続きまして、6 ページでございます。こちらは、5月に発表いたしました業績予想との対比でございます。

数字は先ほどと同じでございますが、下の諸元のところを見ていただきますと、1Qの為替レートは5月時点の予想が115円でございます。これが実績では130円ということになります。それから原油のJCCにつきましては、期初88ドルで置いておりました。

		2022年度 実績	2021年度 実績	前年同期比	業績予想	業績予想比
		<b>173</b> 億円	<b>119</b> 億円	<b>+54</b> 億円(+45%)	<b>146</b> 億円	<b>+27</b> 億円
1Q	化学品	前年同期比 +4億円	価格上昇によりメラミン・テピック増収			
		業績予想比 1億円上ぶれ	価格上昇によりメラミン・テピック上ぶれ			
	機能性材料	前年同期比 +10億円	半導体の増収			
		業績予想比 8億円上ぶれ	半導体の好調、固定費の下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ			
	農業化学品	前年同期比 +28億円	フルララネル(原薬とロイヤリティ)・ラウンドアップ・タルガ・グレーシアの増収			
		業績予想比 11億円上ぶれ	タルガ・ラウンドアップ・ダイセンの上ぶれ、固定費の下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ			
	ヘルスケア	前年同期比 +5億円	リバロ・ファインテック増収			
		業績予想比 2億円上ぶれ	リバロ・ファインテック上ぶれ			

続きまして7ページ、営業利益のセグメントごとの増減分析でございます。

まず、化学品でございますが、ここにコメントがございますように、販売価格の上昇によりまして、メラミン・テピックが増収、ないしは予想比上ぶれということで、化学品、前年同期比ではプラス4億円の増益、業績予想比では1億円の上ぶれでございました。

続きまして、機能性材料でございますが、ディスプレイは利益横ばいでしたが、半導体が大きく増収いたしました結果、前年同期比では、営業利益でプラス10億円、業績予想比につきましても、半導体の好調、それから固定費の下ぶれが約3億円ございまして、こちらの増益要因もございまして、8億円の上ぶれとなっております。

続きまして、農業化学品でございますが、前年同期比、フルララネル・ラウンドアップ・タルガ・グレーシアの増収等ございまして、28億円の大きな増益。

それから業績予想比につきましても、タルガ・ラウンドアップ・ダイセンの上ぶれ、加えまして固定費の下ぶれ、これは増益要因で4億円ほどございまして、利益としては11億円の上ぶれとなっております。

最後に、ヘルスケアでございますが、前年同期比ではプラス 5 億円ということで、リバロ・ファインテックの増収がございました。若干、ファインテックにつきましては、1Q に偏っている部分もございました。なお、業績予想比につきましては、2 億円の上ぶれでございました。

よって、全てのセグメントで前年比増益、および予算比上ぶれということになっております。

## 営業外損益・特別損益の内訳



	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比	(億円) 2022年度 1Q予想 (2022年5月作成、 予想値は非開示)
営業外収益	6.3	24.2	+17.9	7.6
受取利息・配当金	2.7	3.1	+0.4	3.0
為替差益	0.0	16.9	+16.9	0.0
持分法投資損益 他	3.6	4.2	+0.6	4.6
営業外費用	1.9	1.9	0.0	1.6
支払利息	0.3	0.4	+0.1	0.3
為替差損	0.1	0.0	-0.1	0.0
固定資産処分損 他	1.5	1.5	0.0	1.3
営業外損益	4.4	22.3	+17.9	6.0
特別利益	0.0	0.0	0.0	2.5
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益※1	0.0	0.0	0.0	2.5

※1 2022年度1Q予想:  
特別利益+2.5億円(有価証券売却益2.5億円)

| 8

続きまして、8 ページでございます。営業外損益・特別損益の内訳です。

先ほど申し上げました、2022 年度の 1Q の実績値、営業外損益で言いますと、やや下段ですが 22.3 億円という数字が出ておまして、前年同期比で見ますとその隣ですが、プラス約 18 億円という数字が出ております。

大きなところは、上から 3 行目でございます、為替差益というところで、前年はゼロでございましたが、この 1Q につきましては約 17 億円、大きく数字が出ております。

なお、この 5 月に発表いたしました 1Q の予想値が、一番右の列でございますので、ご参考ということでございます。

また、特別損益につきましては、この 1Q に有価証券売却益の 2.5 億円を当初見込んでおりましたが、1Q では売却実績がございませんので、ゼロとなっております。

2022年度1Q実績のフリー・キャッシュ・フローは88億円となり、前年同期比3億円の増加

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	118	131	+13
税金等調整前純利益	123	195	+72
特別損益(マイナスは益)	0	0	0
減価償却費※1	22	25	+3
法人税等の支払	-71	-75	-4
運転資金増減他	44	-14	-58
投資活動によるキャッシュ・フロー	-33	-43	-10
設備投資	-28	-34	-6
投資有価証券購入・売却	-1	-4	-3
その他	-4	-5	-1
フリー・キャッシュ・フロー	85	88	+3
財務活動によるキャッシュ・フロー	-238	-180	+58
株主還元(配当)	-83	-102	-19
株主還元(自己株式取得)	-48	-50	-2
借入金増減	-84	-27	+57
その他	-23	-1	+22
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	8	+8
現金及び現金同等物の増減額	-153	-84	+69
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	0	31	+31
現金及び現金同等物の残高	171	294	+123

※1 のれん償却費を含む

| 9

続きまして、キャッシュ・フロー、9ページをご覧ください。

真ん中の列に、この1Qの2022年度実績の数字がございます。その一つ隣が、前年同期比になっております。

まず、営業活動によるキャッシュ・フローでございますが、税金等調整前純利益がプラス72億円となっておりますが、一方で、運転資金の増加がマイナスに効いておりまして、結果、営業活動によるキャッシュ・フローとしては、前年同期比でキャッシュイン、プラス13億円となっております。

投資活動によるキャッシュ・フローでございますが、キャッシュアウトとして約10億円ございまして、設備投資等が若干増加しているということでございます。

結果、フリー・キャッシュ・フローとしましては、この1Qは88億円、前年同期比プラス3億円ということで、数字としては残っております。

続きまして、財務活動によるキャッシュ・フローでございますが、この1Qはマイナス180億円のキャッシュアウトでございます。

まず、配当につきましては、この6月の期末配当が前期比で増配している関係で、102億円のキャッシュアウト、前年同期比でも19億円の増加になっております。

一方、自己株取得のところでございますが、先ほど申し上げましたように、6月で取得完了しました50億円が、キャッシュアウトとして出ておりますが、前年2021年度につきましては、上期分として70億円の取得をしております。

ただ、昨年6月末で締めたところでは、この株主還元の自己株取得としては48億円のキャッシュアウトということで、まだ取得が完了していない分が、下のその他というところに少し出ております関係で、このような差異が出ております。

また、借入金増減につきましては、キャッシュアウト、マイナス27億円でございますが、こちらは、今期は6月でなく7月にまとまって返済があったということです。

結果、現金及び現金同等物残高としましては、一番下の最終行にございます通り、294億円でした。

なお、その1行上に、連結範囲の変更に伴う現金等の増減額ということで、プラス31億円というのが出ておりますが、こちらはインドの合弁会社、NBRの今期からの連結化によるものでございます。



## 貸借対照表

(億円)

	2021年6月末	2022年3月末	2022年6月末	前期末比
流動資産	1,422	1,753	1,726	-27
現預金	171	347	294	-53
売上債権	664	800	800	0
たな卸資産	498	522	558	+36
その他	89	84	74	-10
固定資産	1,044	1,044	1,046	+2
有形固定資産	515	532	569	+37
無形固定資産	122	118	120	+2
投資有価証券	349	302	298	-4
その他	58	92	59	-33
資産合計	2,466	2,797	2,772	-25

	2021年6月末	2022年3月末	2022年6月末	前期末比
負債	527	717	675	-42
買入債務	157	190	185	-5
借入金	142	227	206	-21
その他	228	300	284	-16
純資産	1,939	2,080	2,097	+17
株主資本 <sup>※2</sup>	1,811	1,967	1,955	-12
その他有価証券評価差額金	105	83	86	+3
為替換算調整勘定	1	9	22	+13
非支配株主持分	18	21	30	+9
退職給付に係る調整累計額	4	0	4	+4
負債純資産合計	2,466	2,797	2,772	-25

### 投資有価証券(固定資産)の内訳

	2021年6月末	2022年3月末	2022年6月末	前期末比
上場株式 <sup>※1</sup> (単体ベース保有銘柄数)	231 (31)	189 (30)	193 (30)	+4 (0)
非上場株式	28	26	31	+5
関係会社株式	90	87	74	-13
合計	349	302	298	-4

自己資本比率	77.9%	73.6%	74.5%
D/ELレシオ <sup>※3</sup>	-1.6%	-6.1%	-4.5%

※1 22/3末 189 + 取得0 + 売却0 + 評価差額4 = 22/6末 193

※2 株主資本増減 -12 = 純利益139 - 配当その他151

※3 D/ELレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)  
各期の政策保有株式(単体、億円)は、21/6末 237、22/3末 198、22/6末 207

純資産に占める 政策保有株式の割合 <sup>※4</sup>	12.2%	9.5%	9.9%
------------------------------------	-------	------	------

| 10

続きまして 10 ページ、貸借対照表、バランスシートでございます。

この左上の表が、資産サイドでございます。資産合計では前期末比、これはこの3月末と比べておりますけれども、25億円の資産減でございます。

現預金では、3月末比ではマイナス53億円ですが、棚卸資産等で少し増加がございました。

それから右側、負債サイド、純資産サイドでは、負債ではマイナス42億円、一方、純資産ではプラス17億円でございます。若干の移動はございますけれども、特段大きな変化はございません。

その結果、右下にございますように、自己資本比率としましては、この6月末で74.5%となっております。

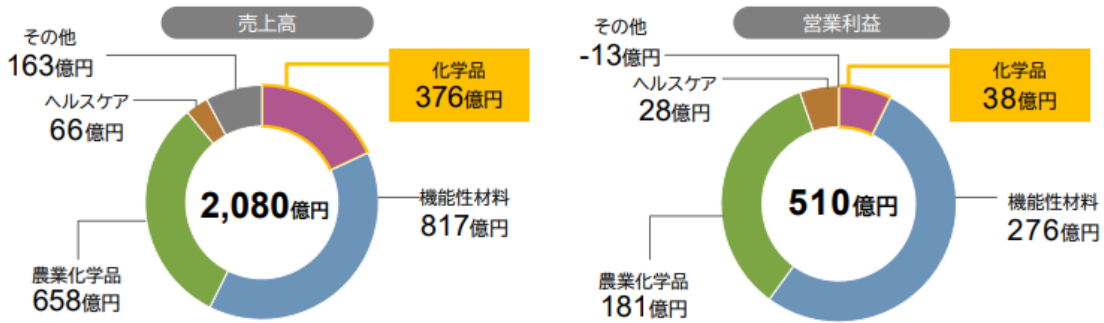
なお、左下に投資有価証券の内訳がございます。合計欄としては、前期末比でマイナス4億円でございます。単体ベースの保有上場株式の銘柄数でいきますと、この3月末から変化はございませんが、時価上昇分の関係でプラス4億円という数字が出ております。

最下段に、連結純資産に占めます、単体ベースの政策保有株式の割合をお示ししております。1年前、2021年6月末は10%を超えて12.2%でしたが、現在では10%を若干切っているという数字でございます。

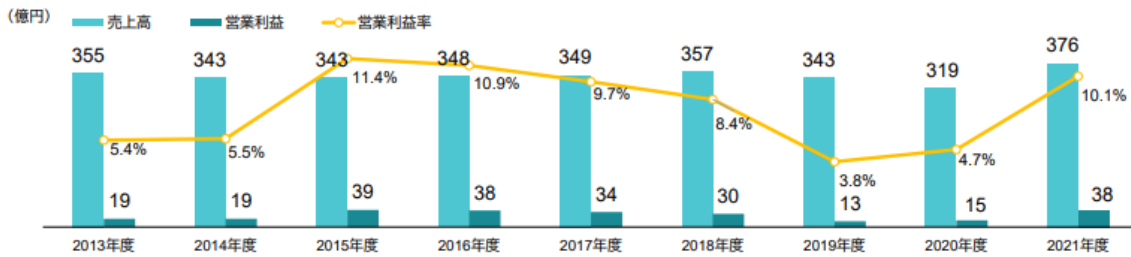
化学品セグメント 概況



2021年度セグメント別業績※



化学品セグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

- ファインケミカルは、1Qで30%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 基礎化学品は、1Qで11%増収、業績予想比では下ぶれ

主要製品	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成 予想値は非開示)
テピック	+43%	上ぶれ
環境化学品	+10%	下ぶれ
ファインオキシコール	+44%	上ぶれ
ファインケミカル合計 <sup>※1</sup>	+30%	上ぶれ
メラミン	+50%	上ぶれ
尿素・アドブルー <sup>®</sup>	+53%	上ぶれ
高純度硫酸	+2%	予想通り
硝酸製品 <sup>※2</sup>	-33%	下ぶれ
基礎化学品合計 <sup>※3</sup>	+11%	下ぶれ
化学品セグメント合計	+18%	上ぶれ

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2022年度1Q実績ファインケミカル売上高に占める割合: 88%

※2 2022年4月から6月に硝酸プラントトラブル停止、6月17日出荷再開 (損失試算)2022年1Q 6.7億円、2Q 3.2億円、上期 9.9億円

※3 メラミン、尿素・アドブルー<sup>®</sup>、高純度硫酸、硝酸製品の2022年度1Q実績基礎化学品売上高に占める割合: 59%

それでは、セグメントの概況ということで、少し飛ばしまして、15 ページ、化学品セグメントから、少しご説明いたします。こちらは、主要製品の売上高成長率でございます。

ファインケミカルでは、1Q で 30%の増収、業績予想比でも上ぶれております。

それから、基礎化学品につきましては、1Q で 11%の増収、一方、業績予想比では下ぶれとなっております。

こちらは、注釈<sup>※2</sup> のところですが、2022 年 4 月から 6 月にかけて、硝酸プラントトラブル停止がございました。6 月 17 日には出荷を再開しておりますけれども、この影響が、損失試算としまして、1Q で約 6.7 億円、2Q で見込みとして 3.2 億円、上期合計で 9.9 億円となっております。

その関係で、硝酸製品につきましては、前年同期比で 33%の減収、業績予想比でも下ぶれとなっております。

【1Q】売上高+16億円、営業利益+4億円

	(億円)		
	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	88	104	+16
ファインケミカル	32	42	+10
基礎化学品	56	62	+6
営業利益	13	17	+4

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

【1Q】増収・増益	
ファインケミカル	テピック一般 価格上昇で増収
	テピック電材 減収
	環境化学品 価格上昇で増収
	ファインオキシコール 化粧品用途回復で増収
	原燃料高、運送費高騰(減益要因)

【1Q】増収・増益	
基礎化学品	メラミン 価格上昇で増収
	尿素・アドブルー® 価格上昇で増収
	高純度硫酸 増収
	硝酸製品 硝酸プラントトラブルで減収(p15参照)
	原燃料高(減益要因)、運送費減少(増益要因)、固定費増加3億円、在庫変動影響3億円(増益要因)

続きまして、16 ページでございます。この化学品セグメントの前年同期比でございます。

この表にお示ししています通り、売上高で前年同期比 16 億円の増収、うち、ファインケミカルでプラス 10 億円、基礎化学品でプラス 6 億円となっております。

また、営業利益につきましては、前年同期比でプラス 4 億円でございます。

下に少しコメントがございますけれども、ファインケミカルにつきましては増収増益、テピックの中でも一般のところは、販売価格の上昇によりまして増収となっております。

一方で、テピック電材につきましては減収となっております、こちらは半導体不足の関係で、車載向けに影響が出ております。また、一部上海のロックダウン影響もございました。

環境化学品につきましては、やはり販売価格の上昇で増収。ファインオキシコールにつきましては、化粧品用途の回復ということで、こちらも比較的大きな増収となっております。

また、原燃料高、それから運送費等の高騰が、この期につきましては減益要因ということで出ておりますが、これをカバーしましても、最終的にはファインケミカルとしては増益となりました。

右側が基礎化学品でございますが、1QのYoYではやはり増収増益でございます。

メラミンが、価格の上昇によりまして増収。尿素・アドブルーも同様でございます。高純度硫酸につきましても、2%でございますが増収でございます。一方、硝酸製品は、先ほど申し上げました通りでございます。

一方、原燃料高や運送費減少ということで、減益要因、増益要因がややミックスしておりますが、トータルとしては減益要因に働いております。

さらに固定費の増加、こちらは先ほど申し上げました、硝酸設備のトラブルによりまして修繕費の増加分が2億円強ございました関係で、こちらは減益要因になっておりますが、一方で、在庫変動の影響で、ほぼ同額の3億円が増益要因としてございまして、ここは相殺される形になりました。

## 化学品セグメント 2022年度1Q決算 業績予想比



### 【1Q】売上高+2億円、営業利益+1億円

硝酸プラントトラブルにもかかわらず、業績予想比利益上ぶれ

(億円)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	102	104	+2
ファインケミカル	37	42	+5
基礎化学品	65	62	-3
営業利益	16	17	+1

#### 【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

ファインケミカル

- テピック一般 価格上昇により売上高上ぶれ
- テピック電材 売上高下ぶれ
- 環境化学品 売上高下ぶれ  
(硝酸プラントトラブル影響、p15参照)
- ファインオキシコール 化粧品用途好調で上ぶれ
- 原燃料高(減益要因)

#### 【1Q】売上高・営業利益とも下ぶれ

基礎化学品

- メラミン 価格上昇で売上高上ぶれ
- 尿素・アドブルー® 価格上昇で売上高上ぶれ
- 高純度硫酸 売上高予想通り
- 硝酸製品 硝酸プラントトラブルで売上高下ぶれ  
(p15参照)
- 原燃料高(減益要因)、運送費下ぶれ(増益要因)、固定費増加3億円

| 17

17 ページ、こちらは化学品セグメントの業績予想比でございます。

売上高プラス2億円、営業利益プラス1億円で、先ほど申し上げました、硝酸プラントトラブルにも関わらず、業績予想比で利益が上ぶれということになっております。

コメントとしては、全ては申し上げませんが、1Q、ファインケミカルでは、売上、営業利益とも上ぶれということでございました。

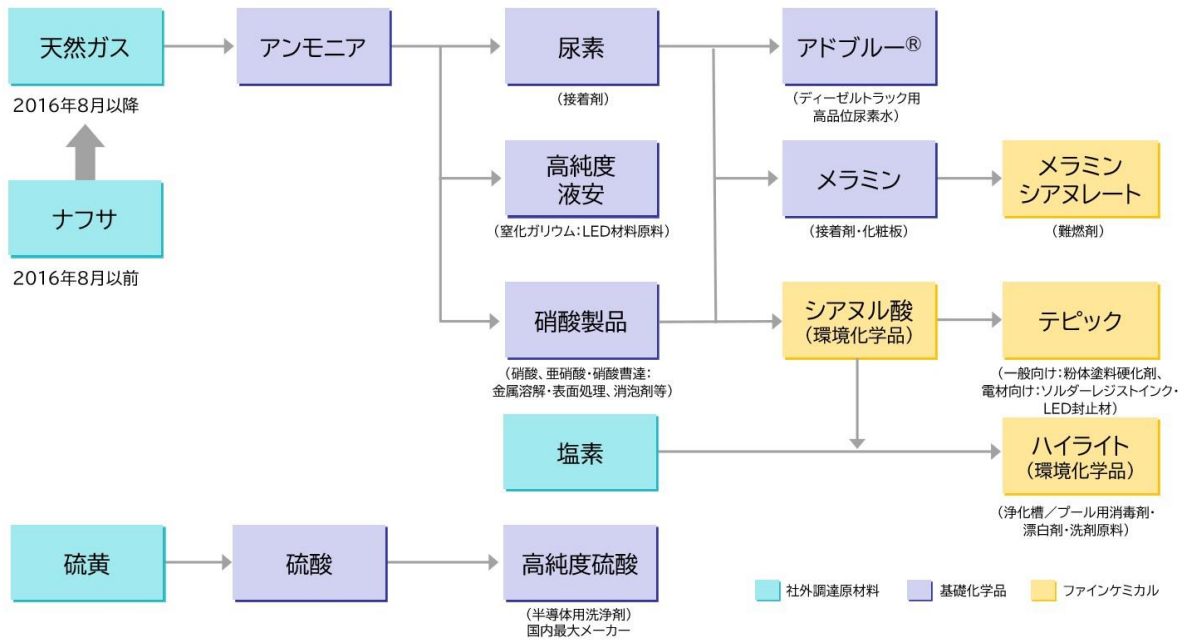
一方、基礎化学品では、先ほど申し上げましたように、硝酸のプラントトラブルの影響で売上、営業利益とも下ぶれということにはなっております。

なお、右下に、固定費増加と書いております3億円の部分につきましては、先ほどの通り、硝酸設備修繕費の増加によるものでございます。

化学品セグメント 主要製品製造フロー



- 主要製品は、アンモニア系と硫酸系
- 2021年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%
- 規模を追わず、高純度硫酸やテピックなどの高付加価値製品へ注力



18 ページ、主要製品の製造フローでございます。

今までのフローチャートから、もう少し詳細に記載しておりまして、真ん中、中段の硝酸製品のところから右に矢印が出ております。基礎化学品だけではなくて、シアヌル酸、テピック等の、一部ファインケミカルのほうにも硝酸トラブルの影響があったということでございます。

- 2021年8月発表通り、2022年6月にメラミン生産を停止
- 今後も高付加価値・高シェア製品へ経営資源を集中

1. 化学品事業の売上高・営業利益(2018-2021年度累計)

(億円)

	売上高(構成比)	営業利益(構成比)	主要製品
アンモニア系	925(66%)	19(20%)	アンモニア、尿素・アドブルー®、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テビック、メラミンシアヌレート
硫酸系	470(34%)	77(80%)	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他			ファインオキシコール等
セグメント合計	1,395(100%)	96(100%)	

※アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字。メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

2. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難でリスクの大きい事業、新規投資による利益拡大も望めない

- 世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- 国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- 価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

3. 対応策

- ① 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- ② 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- ③ メラミン操業員は、富山工場内で配置転換
- ④ メラミン誘導品は、原料メラミンを購入品に切り替えて販売継続

4. 構造改革費用

メラミン停止関連諸費用(特別損失17.9億円)は投資有価証券売却益でカバー済み(2021年2Q計上)

5. ESG

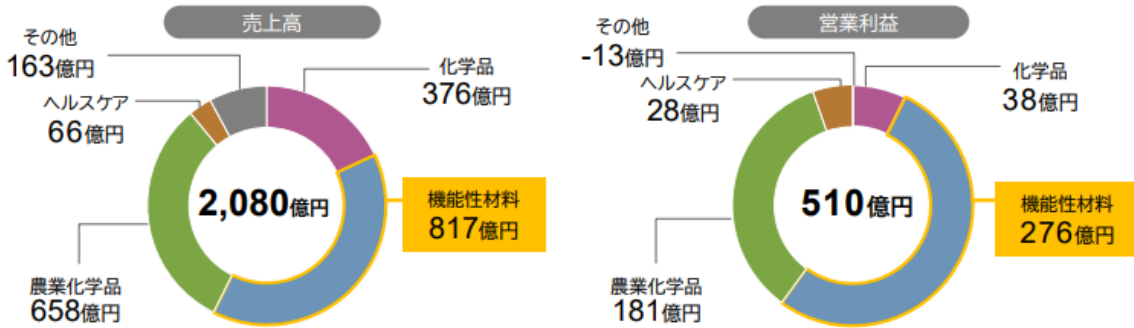
メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン  
→2018年度実績の約7%に相当(p47参照)

| 19

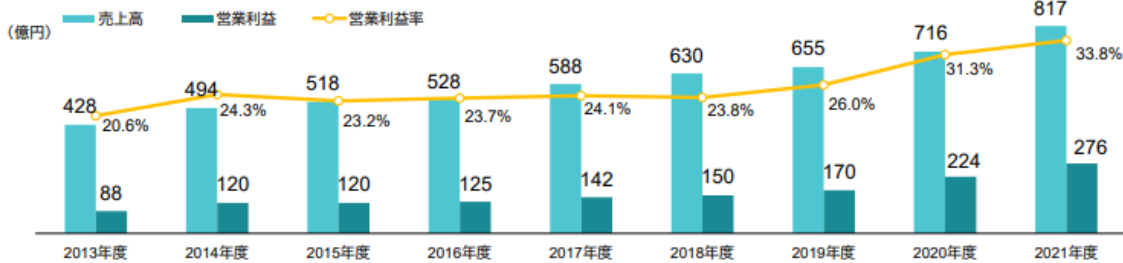
続きまして19ページ、こちらは昨年8月に発表いたしました、メラミンの生産停止による構造改革のページでございます。予定通り、この6月にメラミンの生産を停止しました。

以上が化学品でございます、次に機能性材料セグメントに移ります。

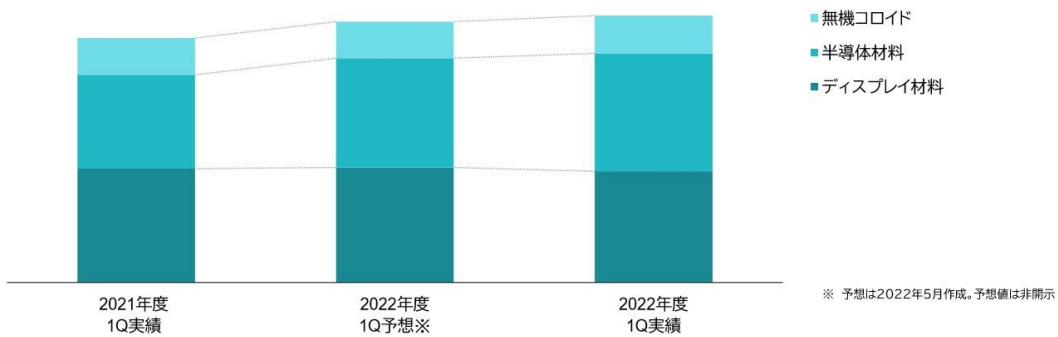
2021年度セグメント別業績※



機能性材料セグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013~2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)



※ 予想は2022年5月作成。予想値は非開示

主要製品

ディスプレイ材料		半導体材料		無機コロイド	
サンエバー	液晶配向材用ポリイミド	ARC®	半導体用反射防止コーティング材	スノーテックス	研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊銅板
		多層材料	半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)	オルガノゾル・モノマーゾル	電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
		その他新材料	EUV材料、三次元実装材料、CMOSイメージセンサー材料等	オイル&ガス材料	シエールオイル・ガス採掘効率向上材



21 ページまで飛んでいただきます。こちらに、機能性材料セグメントの、ディスプレイ、半導体、無機のそれぞれのサブセグメントごとの売上高のイメージが書いてございます。

## 機能性材料セグメント 主要製品売上高成長率



- ディスプレイ材料は、1Qで2%減収、業績予想比でも下ぶれ
- 半導体材料は、1Qで25%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 無機コロイドは、1Qで2%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成・ 予想値は非開示)
サンエバー	-2%	下ぶれ
ディスプレイ材料合計	-2%	下ぶれ
ARC®	KrF (ARC®)	+10% 予想通り
	ArF (ARC®)	+31% 上ぶれ
ARC® 小計	+25%	上ぶれ
その他半導体材料合計※	+26%	上ぶれ
半導体材料合計	+25%	上ぶれ
スノーテックス	+2%	上ぶれ
オルガノソル・ モノマーソル	+3%	上ぶれ
オイル&ガス材料	+47%	上ぶれ
無機コロイド合計	+2%	上ぶれ
機能性材料セグメント合計	+9%	上ぶれ

※ 多層材料 (OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料等

| 22

続きまして 22 ページ、こちらが 1Q の主要製品の売上高成長率でございます。

冒頭のコメントにございます通り、ディスプレイ材料は、1Q で 2% の減収、業績予想比でも若干下ぶれでした。

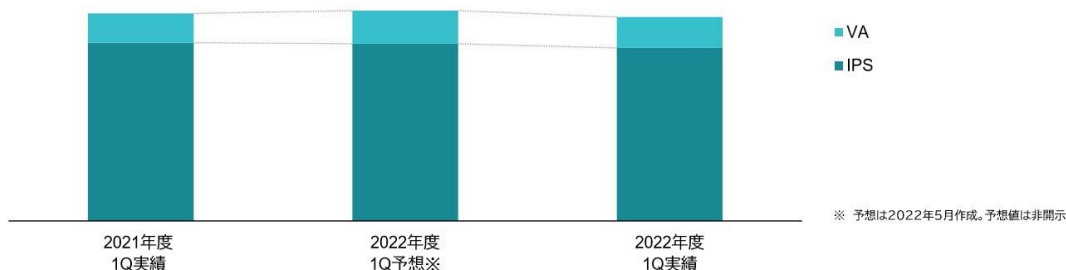
また、半導体材料は、1Q で 25% の大きな増収、業績予想比でも上ぶれております。

無機コロイドは、1Q で 2% の増収、業績予想比でも上ぶれでした。

それぞれの製品につきましては、下に記載の通りでございますが、サンエバーにつきましては、今申し上げました通り、マイナス 2% の前年同期比の減収、また業績予想比につきましても若干の下ぶれとなっております。

一方、半導体は、ARC で前年同期比 25% の増収、またその他の半導体材料につきましても、同様に 26% の大きな増収となっております。

光IPSは前年同期比で増収、業績予想比でも上ぶれだが、サンエバー合計では2%減収、業績予想比でも下ぶれ



主要用途

- VA (Vertical Alignment) テレビ
- IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター

モード別売上高成長率

	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成・予想値は非開示)
VA	増収(+0 ~ +9%)	下ぶれ
IPS	減収(-0 ~ -9%)	下ぶれ
サンエバー合計(TN※含む)	-2%	下ぶれ

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

続きまして 23 ページ、ディスプレイ材料事業の中のサンエバーのモード別の売上高でございます。

こちらの下の表を見ていただきますと、1Q、前年同期比ではVAで増収、一方、業績予想比では下ぶれでございました。

続きまして、IPSは、光IPSとラビングIPSの両方が入っておりますけれども、こちらは前年同期比で減収、業績予想比でも下ぶれということになっております。

なお、冒頭に記載がございます通り、光IPSにつきましては、前年同期比では増収、また業績予想比でも上ぶれでございました。

【1Q】売上高+18億円、営業利益+10億円

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	200	218	+18
営業利益	69	79	+10

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

ディスプレイ	【1Q】減収・利益横ばい	
	光IPS	増収(非スマホ好調)
	ラビングIPS	減収
	VA	増収

半導体	【1Q】増収・増益	
	ARC®	増収
	その他	増収(多層材料・その他新材料※増収)
	市場全般好調、固定費増加1億円	

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料の合計

無機コロイド	【1Q】増収・増益	
	スノーテックス	増収(一般用途・研磨材ともに増収)
	オルガノ・モノマーゾル	増収
	オイル&ガス材料	増収
固定費減少1億円		

| 24

続きまして 24 ページ、こちらは 1Q の機能性材料セグメント、前年同期比でございます。

売上高で 18 億円増収、営業利益で 10 億円増益でございます。

まずディスプレイですが、左下でございます通り、1Q では減収、利益については横ばいということでございました。中でも、光 IPS につきましては、非スマホ向けが好調持続ということで、増収となっております。

一方、ラビング IPS は減収、VA は増収でございました。

半導体でございますが、1Q は増収増益でございます。こちらは先ほどお示した通り、ARC、それからその他も大きく増収、市場全般が好調でございましたが、なお固定費につきましては、費用サイドで 1 億円増加というのが出ております。

無機コロイドも増収増益でございまして、スノーテックス、オルガノ・モノマーゾル、それからオイル&ガス材料も、いずれも増収でございました。

また、固定費の減少は、利益サイドに出ましたが、こちら 1 億円がプラスで計上されております。

【1Q】売上高+6億円、営業利益+8億円、固定費下ぶれ合計3億円(増益要因)

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	212	218	+6
営業利益	71	79	+8

(億円)

ディス プレイ	【1Q】売上高下ぶれ・営業利益上ぶれ
光IPS	売上高上ぶれ
ラビングIPS	売上高下ぶれ
VA	売上高下ぶれ
	固定費下ぶれ1億円(増益要因)

半 導 体	【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ
ARC®	売上高上ぶれ
その他	売上高上ぶれ(多層材料・その他新材料※上ぶれ)
	市場全般好調、固定費下ぶれ2億円(増益要因)
	※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材の合計

無 機 コ ロ イ ド	【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ
スノーテックス	売上高上ぶれ(一般用途・研磨材ともに上ぶれ)
オルガノ・モノマーソル	売上高上ぶれ
オイル&ガス材料	売上高上ぶれ

| 25

続きまして 25 ページ、こちらは業績予想比でございます。

売上高で言いますと、冒頭に書いてございます通り、プラス 6 億円、営業利益でプラス 8 億円でございます。

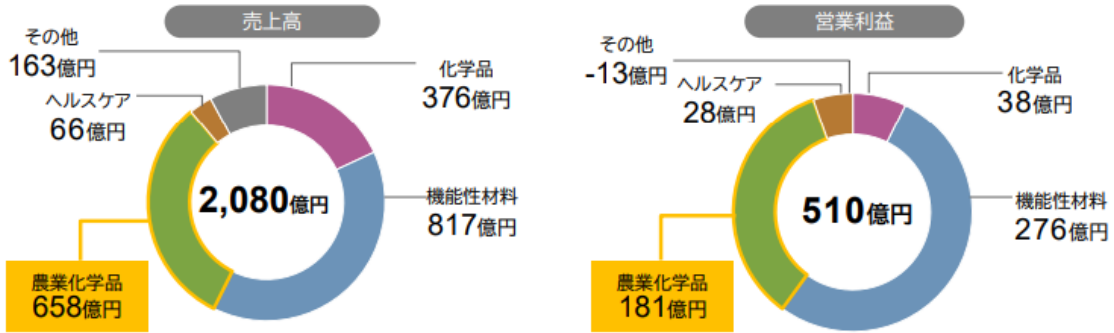
また、固定費の下ぶれ合計として 3 億円が増益要因でございます。中でも、ディスプレイで 1 億円、半導体で約 2 億円というのが、固定費の下ぶれの内訳でございます。

それぞれのサブセグメントの簡単なコメントでございますが、左下の通り、ディスプレイにつきましては、売上高で下ぶれ、営業利益では上ぶれております。

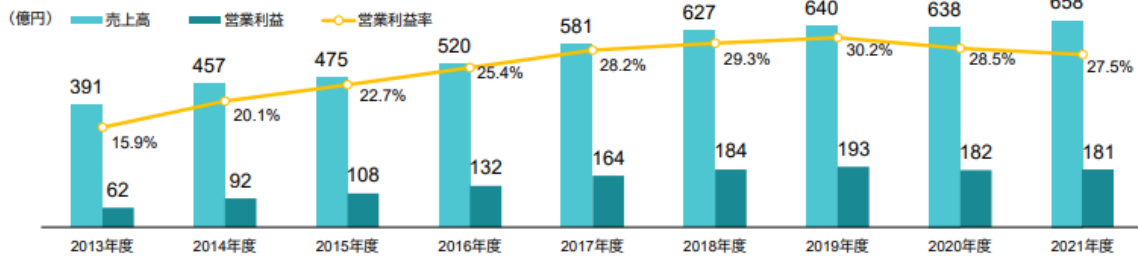
光 IPS は売上高で上ぶれ、一方ラビング IPS、VA は、下ぶれということになっております。

一方、半導体は、売上高、営業利益とも上ぶれでございました。それから無機も、同様に売上、営業利益ともに上ぶれでございます。

2021年度セグメント別業績※



農業化学品セグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み (p38,p39参照)

農業化学品セグメント 主要製品売上高成長率(値引前)

1Qで47%増収、業績予想比でも上ぶれ

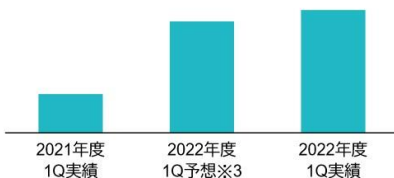
主要製品名 (2021年度 売上高順)	種類	前年同期比 (1Q)	業績予想比 (2022年5月作成、 予想値は非開示)
ラウンドアップ※1	除草剤	+22%	上ぶれ
フルララネル	動物薬	+55%	上ぶれ
アルテア	除草剤	+27%	上ぶれ
タルガ	除草剤	+89%	上ぶれ
ダイセン	殺菌剤	+37%	上ぶれ
パーミット	除草剤	+59%	上ぶれ
ライメイ	殺菌剤	+208%	上ぶれ
グレーシア	殺虫剤	+216%	上ぶれ
クインテック	殺菌剤	-97%	下ぶれ
セグメント合計※2	-	+47%	上ぶれ

参考

■ 国内農業販売 第1位  
(2019年10月～2020年9月)  
ラウンドアップの現状説明会資料 [☑](#)  
(2020年1月22日発表)

※1 ラウンドアップALは、2022年度1Qのラウンドアップ売上高全体の32%を占める  
※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

グレーシア売上高



参考

2021年度 決算説明資料(2022年5月13日発表)  
p40 グレーシア売上高成長予想

※3 2022年5月作成。予想値は非開示

続きまして、農業化学品でございます。27 ページまで飛んでいただきます。こちらは、主要製品の売上高成長率でございます。

ここに書いてございます通り、1Q では47%の増収、業績予想比でも上ぶれでございました。

まず、ラウンドアップでございますが、前年同期比ではプラス22%、業績予想比でも上ぶれております。

動物薬フルララネルにつきましても、プラス55%ということでもございました。また、業績予想比でも上ぶれ。

以下、アルテア・タルガ・ダイセン・パーミット等、ほぼ全て増収、ないしは上ぶれでございますが、クインテックだけ、こちらは期ずれの関係もございまして、減収ないしは下ぶれということになっております。

グレーシア売上高のイメージは左下のバーチャートの通りでございます。この1Qにつきましては、YoYではかなりの伸びを示しました。また、5月の予想に対しましても上ぶれとなっております。

## 農業化学品セグメント 2022年度1Q決算 前年同期比



【1Q】売上高+63億円、営業利益+28億円、固定費増加3億円、在庫変動影響7億円(増益要因)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	134	197	+63
営業利益	40	68	+28

※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

主要製品	増収(減収)	理由
ラウンドアップ(除草剤)	増収	(ML・ALともに価格上昇、数量増)
フルララネル(動物薬)	増収	(原薬出荷の2021年度からの後ろ倒し、顧客在庫調整終了、ロイヤリティ収入堅調)
アルテア(除草剤)	増収	(国内・輸出ともに増収)
タルガ(除草剤)	増収	(2Qからの一部出荷前倒し、需要増)
ダイセン(殺菌剤)	増収	(輸出)
パーミット(除草剤)	増収	
ライメイ(殺菌剤)	増収	(欧州での混合剤用途向け販売により輸出増収)
グレーシア(殺虫剤)	増収	(国内:流通在庫解消により増収、輸出:インド・インドネシアでの拡販および韓国での販売回復により増収)
クインテック(殺菌剤)	減収	(2Qへ出荷後ろ倒し)

| 28

続きまして28 ページ、こちらは1Qの前年同期比でございます。

売上高でプラス 63 億円、営業利益でプラス 28 億円でございます。

また、固定費の増加が減益要因として 3 億円、一方、在庫の変動影響としましては、増益要因としては 7 億円が出ております。

主要製品では、左下に書いてある通りでございます。ラウンドアップにつきましては、これは ML・AL とも、値上げを昨年実行しておりますけれども、販売数量も増加したため増収となっております。

動物薬フルララネルにつきましては、ここに記載の通り、原薬出荷の一部について、2021 年度から 2022 年度 1Q への後ろ倒しという影響もございましたし、またメルクでの在庫調整の終了ということもございまして、原薬が伸びました。また、ロイヤリティ収入につきましても堅調でございました。

それから、タルガは大きく増収でしたが、一部、2Q からの出荷の前倒しもありましたが、需要増にも支えられております。また、ライメイは、欧州での混合剤用途向けの販売により、輸出が増加し、こちらも増収でした。

グレーシアにつきましては、国内は流通在庫の解消がほぼ見られました関係で増収。また、輸出につきましても、昨年度下期から出荷を開始しております、インド・インドネシアでの拡販、また韓国での販売回復というところから増収となっております。

クインテックは、先ほど申し上げましたように、2Q への出荷後ろ倒しということで、減収でございました。

【1Q】売上高+25億円、営業利益+11億円、固定費下ぶれ4億円・在庫変動影響+2億円(ともに増益要因)

	(億円)		
	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	172	197	+25
営業利益	57	68	+11

主要製品		
ラウンドアップ(除草剤)	売上高上ぶれ(ML:上ぶれ、AL:予想通り)	
フルラナネル(動物薬)	売上高上ぶれ(ロイヤリティ収入上ぶれ)	
アルテア(除草剤)	売上高上ぶれ	
タルガ(除草剤)	売上高上ぶれ(2Qからの一部出荷前倒し、需要増)	
ダイセン(殺菌剤)	売上高上ぶれ(2021年度からの一部出荷後ろ倒し)	
パーミット(除草剤)	売上高上ぶれ	
ライメイ(殺菌剤)	売上高上ぶれ(2021年度からの一部出荷後ろ倒し、需要増)	
グレーシア(殺虫剤)	売上高上ぶれ(インド・インドネシア向け拡販)	
クインテック(殺菌剤)	売上高下ぶれ(2Qへ出荷後ろ倒し)	

29 ページでございます。

業績予想比は、記載の通り、売上高で 25 億円の上ぶれ、営業利益では 11 億円の上ぶれとなっております。

また、固定費につきましては、下ぶれが 4 億円ございました。また、在庫変動影響も 2 億円ということで、これはいずれも増益要因になっております。

それぞれの主要製品につきましては、そこに記載の通りでございます。



- グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指し、新たな原体生産拠点を設立
- 2022年度よりNBRを連結子会社に追加
- 工場稼働は、2022年度4Qの予定(一部機器納入遅れにより、当初2022年度2Qから変更)

**Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要**

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設 (土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農業(グレーシア、ライメイ、クインテック等)原体を製造し、当社へ販売
従業員数	150-200名(2022年想定)
工場稼働予定	<b>2022年度4Q</b>
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

**資金計画 (2022年5月発表時点)**

(億円)			
設備投資	60	資本金	23
運転資金他	28	当社貸付	65
所要資金合計	88	資金調達合計	88

**当社連結営業利益への貢献予想(概算)**

(億円)					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
営業利益	-	-2	10	24	29

**Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要**

設立	1989年(インド大手農業製造販売会社)
上場	インド国立証取(NSE)、ボンバイ証取(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族75.05%
損益状況	2021年度売上高13,012百万ルピー、税引後利益1,760百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana)ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Certis Agriscienceがタルガ、バルサー、パーミットをインド国内で販売

**当社メリット**

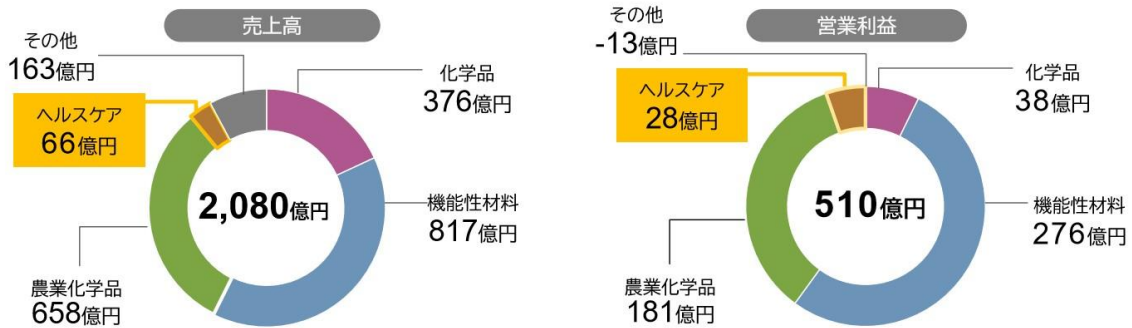
- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

続きまして、34 ページまで飛んでいただきまして、若干5月のご説明から少し変わっているところということで、インド合弁会社の部分でございます。

冒頭の、上から3行目のコメントにございますように、当初、2022年度2Qから工場稼働を目指しておりましたが、一部機器の納入遅れがございまして、2022年度4Qへの、工場稼働の後ろ倒しを予定するというので、改めております。

なお、当社連結営業利益への貢献予想につきましては、右下の数字の通りでございまして、ほぼ変わっていませんが、今年度につきましては、若干良化しているということでございます。

2021年度セグメント別業績※



ヘルスケアセグメント業績推移



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

最後に、ヘルスケアセグメントでございます。35 ページをご覧ください。

こちらで、下のバーチャートの折れ線が、営業利益率を示しておりますが、2021年度にかなり跳ね上がっております。

ここは少し説明を要するところございまして、具体的な数字は後ほどご説明いたしますが、2022年4月から、ヘルスケアセグメントは、ご案内の通り組織改定を実施しております。その関係でセグメント情報の開示会計基準にのっとりまして、組織改定の前年度であります2021年度のセグメント情報を、今年度の区分方法に作り直して、ここで開示させていただいているという関係でございます。

【1Q】売上高+5.8億円、営業利益+4.6億円

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比
売上高	10.7	16.5	+5.8
ヘルスケア	6.3	8.3	+2.0
ファインテック	4.4	8.2	+3.8
営業利益	3.0	7.6	+4.6
ヘルスケア	2.0	3.9	+1.9
ファインテック	1.0	3.7	+2.7

※ p12,p13,p44,p45,p66,p67では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある  
 ※ 2021年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

## 【1Q】増収・増益

ヘルスケア

リバロ

【1Q】増収(国内・輸出とも増収)

ファイン  
テック

## 【1Q】増収・増益

今期販売は1Q偏重により増収

## 主要製品売上高成長率

	2022年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比 (2022年5月作成・ 予想値は非開示)
リバロ	+37%	上ぶれ
ファインテック	+86%	上ぶれ
セグメント合計	+55%	上ぶれ

| 36

36 ページ、こちらは1Qの前年同期比でございます。

ここで数字をお示しの通り、売上高でプラス約6億円、営業利益でプラス約5億円弱という、増収増益となっております。

下に少しコメントがございます通り、リバロの1Qにつきましては、国内・輸出ともに増収でしたが、ファインテックにつきましては、今期の販売タイミングが少し1Q偏重になっている関係もございまして、増収となっております。

【1Q】売上高+0.6億円、営業利益+1.4億円

	2022年度 1Q予想	2022年度 1Q実績	業績予想比
売上高	15.9	16.5	+0.6
ヘルスケア	7.9	8.3	+0.4
ファインテック	8.0	8.2	+0.2
営業利益	6.2	7.6	+1.4
ヘルスケア	3.3	3.9	+0.6
ファインテック	2.9	3.7	+0.8

(億円)

※ p12,p13,p44,p45,p66,p67では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

**ヘルスケア** 【1Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ  
 リバロ 売上高上ぶれ(国内下ぶれ、輸出上ぶれ)

**ファインテック** 【1Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ  
 ジェネリック原薬上ぶれで売上高上ぶれ

| 37

37 ページ、ヘルスケアセグメントの業績予想比でございます。

こちら先ほどの数字の通りでございまして、売上高、営業利益とも若干ではございますが、業績予想比上ぶれとなっております。

事業環境の変化を適切にとらえながら中長期的な成長を実現していくため、2022年4月1日付で以下の組織改定を実施

医薬品事業部および企画本部※1ライフサイエンス材料開発部の組織改定

目的 創薬・医療材料の機能統合(研究機能を企画本部※1。営業機能をヘルスケア事業部)



※1 企画本部は、セグメントでは「調整額」に含まれる。  
企画本部の2021年度実績および2022、2024、2027年度予想の売上高・営業利益はp56に記載

	2021年度 実績 (組織改定前ベース)					2021年度 実績 (組織改定後ベース)					組織改定 前後差				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
化学品	13	-1	13	13	38	13	-1	13	13	38	0	0	0	0	0
機能性材料	70	62	76	69	277	69	62	76	69	276	-1	0	0	0	-1
農業化学品	41	29	31	82	183	40	29	30	82	181	-1	0	-1	0	-2
ヘルスケア	-2	7	4	0	9	3	11	9	5	28	+5	+4	+5	+5	+19
ヘルスケア	-3	-2	-3	-3	-11	2	2	2	2	8	+5	+4	+5	+5	+19
ファインテック	1	8	8	3	20	1	8	8	3	20	0	0	0	0	0
卸売	7	6	8	8	29	7	6	8	8	29	0	0	0	0	0
その他	1	-1	2	5	7	1	-1	2	5	7	0	0	0	0	0
調整額	-11	-8	-8	-6	-33	-14	-12	-12	-11	-49	-3	-4	-4	-5	-16
合計	119	94	126	171	510	119	94	126	171	510	0	0	0	0	0

※1 2021年度実績(組織改定前)のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント  
 ※2 ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある  
 ※3 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額: 企画本部ほか  
 ※4 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載  
 ※5 売上高は、組織改定の影響なし

次に、39 ページでございます。先ほど少し申し上げました、2021 年度、過年度のセグメント別営業利益につきまして、2022 年 4 月からの組織改正影響を数字としてお示しをしております。

一番左の部分が、組織改定前のベースで、従来から 2021 年度実績としてお示ししていました数字、真ん中が、今回組織改定後ということで再作成したものでございます。

ヘルスケアのところを見ていただきますと、その前後差ということで、一番右のところがございますように、年間を通して約 19 億円が、営業利益ベースでは上ぶれということで、組み替え後の数字としてお示しをしております。

このうち、大半が調整額というところに移動しております、これは下に※3 のところで細かく書いてありますが、企画本部に移っているのは 16 億円、それからそれ以外の、具体的には機能性材料と農業化学品のところで、1 億円ないしは 2 億円という数字で、間接費の配分等が変更になった関係で、こちらで数字として減益要因となっておりますが、これは過年度の数字ということでございます。

## 2022年度通期 業績予想サマリー



### ■ 上期及び通期業績予想を上方修正

1Q実績に、2～4Qは2022年5月発表予想値を合算して、今回業績予想を策定

(ただし、2Qのディスプレイ材料は、売上高-16億円、営業利益-11億円修正。

1Qに当初計画していた特別利益(有価証券売却益)3億円は、下期計上予定に修正)

上期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高は136億円増収(+15%)</li> <li>■ 営業利益は63億円増益(+29%)、純利益は49億円増益(+30%)</li> <li>■ 営業利益・経常利益・純利益は2年連続過去最高益を更新</li> </ul>
通期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高は153億円増収(+7%)</li> <li>■ 営業利益は41億円増益(+8%)、純利益は29億円増益(+8%)</li> <li>■ 営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続、過去最高益を更新</li> <li>■ ROE予想は19.6%</li> </ul>
上期・通期	前回業績予想比	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高は43億円上ぶれ</li> <li>■ 営業利益は16億円上ぶれ、純利益は21億円上ぶれ</li> </ul>

### ■ 株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%(2022年5月発表から変更なし)
- 自己株式取得50億円完了(取得期間:2022年5～6月)
- 年間配当は前回予想154円から162円に増額(中間・期末ともに4円増額)

配当	通期162円 中間70円、期末92円、配当性向54.8% 【前年比】中間20円増配、期末20円増配 【2022年5月発表予想比】中間4円増配、期末4円増配
自己株式取得	50億円、683千株取得済(取得期間:2022年5～6月)(2021年度実績 120億円、2,033千株)
自己株式消却	1百万株消却済(2022年5月)
総還元性向目標	75%(配当162円と自己株式取得50億円に基づけば66.7%)

| 42

続きまして 42 ページ、通期業績予想のサマリーでございます。

もともと1Qの結果が出るタイミングでは、当社としましては、全社的な予算見直しを行うプロセスはございませんが、1Qの上ぶれ幅が大きかったこともありまして、今回上期ならびに通期の業績を上方修正することといたしました。

考え方でございますが、ここに青字に記載の通りでございます。1Q実績に、2Qから4Qはこの5月に発表いたしました予想値を合算して、今回の業績予想を策定しております。

2Q以降の為替レートや原油等の諸元、想定水準につきましては、変えておりません。

ただし、2Qのディスプレイ材料につきましては、足元の市場、顧客動向を鑑みまして、売上高でマイナス16億円、それから営業利益につきましてはマイナス11億円、下方修正の数字を入れております。

また、1Qに当初計画していました特別利益、有価証券売却益でございます3億円、正確には2.5億円ですが、これは上期売却せずということで、下期計上予定に修正しております。

この業績修正の結果、上期につきましては、そこに書いてある通り、前年同期比で売上高136億円増収、営業利益は63億円の増益、純利益は49億円の増益でございます。また、通期前年同期比で見ますと、売上高で153億円増収、これはプラス7%、営業利益は41億円の増益、プラス8%、純利益はプラス29億円増益、プラス8%、いずれも前年同期比でございます。

この結果、営業利益、経常利益は9年連続、純利益は10年連続で過去最高益更新を予定しております。

また、ROEの予想でございますが、19.6%ということになります。年初は18.7%、2021年度、過年度は19.2%という数字でございます。

前回業績予想比で言いますと、売上高で43億円上ぶれ、営業利益は16億円、純利益は21億円のうぶれでございます。

株主還元予想につきましても、中計目標で立てました、総還元性向75%、配当性向55%は、5月の発表から変更ございません。

したがって、先ほど申し上げました上方修正に伴い、年間配当につきましては、青字の部分でございますが、前回予想154円から162円ということで、中間・期末とも5月にお示しした数字から4円増額ということでございます。

具体的には、中間70円、期末92円で、配当性向55%を維持するということでございます。

なお、総還元性向につきましては、最下段に書いてございます通り、この6月に完了しました自己株取得50億円を加味しますと、現時点では66.7%ということになっておりますが、75%の目標は変えておりません。

## 2022年度業績予想



(億円)

	2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2022年5月発表)					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q 実績	2Q	上期	下期	年間
売上高	465	453	918	1,162	2,080	524	487	1,011	1,179	2,190	583	471	1,054	1,179	2,233
営業利益	119	94	213	297	510	146	114	260	275	535	173	103	276	275	551
営業外損益	4	6	10	17	27	6	-3	3	3	6	22	-3	19	3	22
経常利益	123	100	223	314	537	152	111	263	278	541	195	100	295	278	573
特別損益	0	0	0	5	5	3	0	3	2	5	0	0	0	5	5
純利益 <sup>※1</sup>	88	75	163	225	388	112	81	193	203	396	139	73	212	205	417
EBITDA <sup>※2</sup>	142	118	260	352	612	-	-	312	339	651	197	131	328	339	667
EPS(円/株)	61.73	52.21	113.94	157.94	271.88	-	-	136.77	144.13	280.90	98.13	51.99	150.12	145.71	295.83
配当(円/株)	-	-	50	72	122	-	-	66	88	154	-	-	70	92	162
配当性向(%)	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	54.8%	-	-	-	-	54.8%
配当総額	-	-	71	102	173	-	-	93	124	217	-	-	99	129	228
売上高営業利益率	25.5%	20.9%	23.2%	25.5%	24.5%	27.9%	23.4%	25.7%	23.3%	24.4%	29.6%	21.9%	26.2%	23.3%	24.7%
ROE	-	-	-	-	19.2%	-	-	-	-	18.7%	-	-	-	-	19.6%
為替レート(円/ドル)	110	110	110	115	112	115	115	115	115	115	130	115	115	115	115
原油(JCC)(ドル/bbl) <sup>※3</sup>	67	73	70	83	77	88	88	88	88	88	111	88	88	88	88

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 43

具体的な数字でございますが、43ページをご覧ください。

この表の真ん中の部分が、5月に発表いたしました業績予想の数字。それに対しまして今回見直したものが、一番右の青色の網かけされています部分でございます。

諸元につきましては、先ほど申し上げました通り、変更なしということで、為替レートは2Q以降115円、原油につきましては88ドルというところも変わっておりません。



## セグメント別 2022年度通期 前年同期比

(億円)

		2021年度 実績					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)					前年同期比				
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q 実績	2Q	上期	下期	年間	1Q 実績	2Q	上期	下期	年間
化学品	売上高	88	83	171	205	376	104	91	195	193	388	+16 (+18%)	+8 (+10%)	+24 (+14%)	-12 (-6%)	+12 (+3%)
	営業利益	13	-1	12	26	38	17	-2	15	8	23	+4 (+36%)	-1 (-)	+3 (+24%)	-18 (-68%)	-15 (-40%)
機能性材料	売上高	200	196	396	421	817	218	206	424	465	889	+18 (+9%)	+10 (+5%)	+28 (+7%)	+44 (+10%)	+72 (+9%)
	営業利益	69	62	131	145	276	79	63	142	160	302	+10 (+14%)	+1 (+2%)	+11 (+8%)	+15 (+10%)	+26 (+9%)
農業化学品	売上高	134	116	250	408	658	197	135	332	422	754	+63 (+47%)	+19 (+17%)	+82 (+33%)	+14 (+3%)	+96 (+15%)
	営業利益	40	29	69	112	181	68	38	106	100	206	+28 (+69%)	+9 (+37%)	+37 (+56%)	-12 (-12%)	+25 (+14%)
ヘルスケア	売上高	11	22	33	33	66	17	14	31	29	60	+6 (+55%)	-8 (-37%)	-2 (-8%)	-4 (-10%)	-6 (-9%)
	営業利益	3	11	14	14	28	8	5	13	10	23	+5 (+153%)	-6 (-58%)	-1 (-12%)	-4 (-29%)	-5 (-21%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	32	36	68	95	163	47	25	72	70	142	+15	-11	+4	-25	-21
	営業利益	-6	-7	-13	0	-13	1	-1	0	-3	-3	+7	+6	+13	-3	+10
合計	売上高	465	453	918	1,162	2,080	583	471	1,054	1,179	2,233	+118 (+25%)	+18 (+4%)	+136 (+15%)	+17 (+2%)	+153 (+7%)
	営業利益	119	94	213	297	510	173	103	276	275	551	+54 (+45%)	+9 (+9%)	+63 (+29%)	-22 (-7%)	+41 (+8%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む  
 ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp66,p67参照)  
 ※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載  
 ※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p38,p39参照)

| 44

この結果、44 ページでございますが、前年同期比で見ますと、一番右の四角で囲ってある部分、これが上期、それから通期という数字でございます。

一番下段で見ていただきますと、営業利益で上期では 63 億円の増益、年間では 41 億円の増益でございます。

特に機能性材料、先ほど申し上げました通り、ディスプレイのところでは 2Q について、少し下げたおりました、その数字が、ここで見ますと 2Q の営業利益プラス 1 という数字が前年同期比のところでございます。

年初は、74 億円という 2Q の営業利益の数字を入れておりましたが、これは今回、11 億円下げて 63 億円としています。

## セグメント別 2022年度通期 前回業績予想比

(億円)

		2022年度 業績予想 (2022年5月発表)					2022年度 業績予想 (2022年8月発表)					前回業績予想比
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q	上期	下期	年間	上期・年間
化学品	売上高	102	91	193	193	386	104	91	195	193	388	+2
	営業利益	16	-2	14	8	22	17	-2	15	8	23	+1
機能性材料	売上高	212	222	434	465	899	218	206	424	465	889	-10
	営業利益	71	74	145	160	305	79	63	142	160	302	-3
農業化学品	売上高	172	135	307	422	729	197	135	332	422	754	+25
	営業利益	57	38	95	100	195	68	38	106	100	206	+11
ヘルスケア	売上高	16	14	30	29	59	17	14	31	29	60	+1
	営業利益	6	5	11	10	21	8	5	13	10	23	+2
卸売・その他・ 調整額	売上高	22	25	47	70	117	47	25	72	70	142	+25
	営業利益	-4	-1	-5	-3	-8	1	-1	0	-3	-3	+5
合計	売上高	524	487	1,011	1,179	2,190	583	471	1,054	1,179	2,233	+43
	営業利益	146	114	260	275	535	173	103	276	275	551	+16

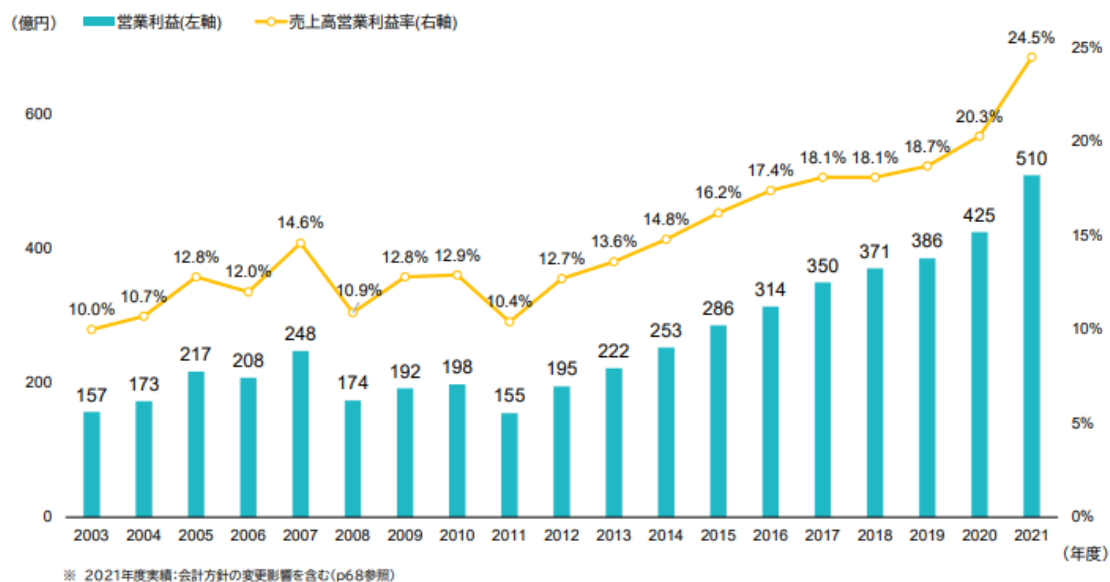
※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む  
 ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥種ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp66、p67参照)  
 ※ 企画本部の2022年度予想(2022年8月発表)の売上高・営業利益はp56に記載

また、前回の業績予想比で見た数字が、45 ページのところでございます。

一番右の太い枠で囲った部分でございますが、機能性材料では、上期・年間とも、5月にお示した数字から比べまして、売上高でマイナス10億円、営業利益ではマイナス3億円となっておりますが、農業化学品等の売上の上ぶれ、あるいは営業利益の上ぶれということで、最下段にございます通り、売上高では43億円のうぶれ、営業利益では16億円のうぶれ、これを今回予定しております。

## 売上高営業利益率の推移

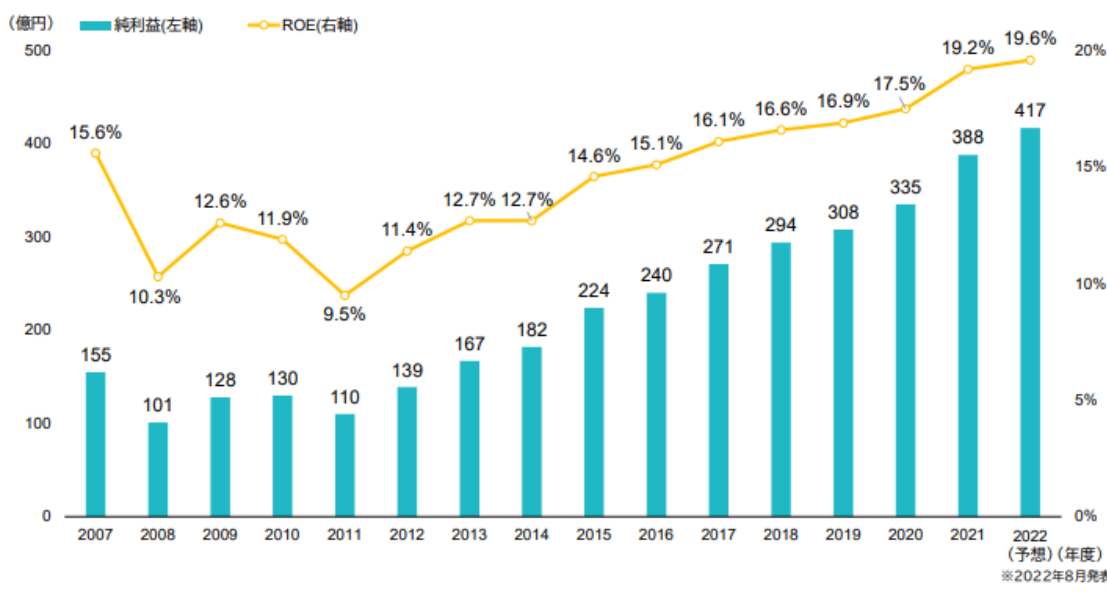
- 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降19年連続10%以上)
- 2021年度実績は24.5%



| 57

## ROEの推移

- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2022年度予想は19.6%



| 58

以降は参考資料となります。57 ページ、58 ページは、売上高営業利益率の推移、ROE の推移のグラフです。私からは、以上でございます。

## 質疑応答

---

### <質問者 1>

**Q:** ディスプレイ材料の 2Q 下方修正の要因を教えてください。

**A:** 下方修正の要因については、全般的に各アプリケーションでの需要減、およびパネル在庫の過剰確保に伴いまして、各顧客が稼働調整を行っている状況です。ただその中でも、光 IPS につきましては、ラビング IPS 等からの切り替えという中で堅調に推移しているという状況です。

**Q:** この稼働調整は、いつぐらいまで続くと見られていますか。

**A:** 不透明な部分が多いですが、現時点では、この 2Q で大方在庫の消費が完了して、下期以降、段階的に稼働が回復していくと見ております。

**Q:** 次に、半導体材料について、今後メモリの調整等が出てくるとは思われますが、この辺りの考え方についてお願いできますでしょうか。

**A:** 今まさに情報を集めている段階ですが、現時点では大きく生産調整が入るとは見ていません。多少、投資の遅れがある程度だと思えます。

**Q:** 次に、農業化学品について、全般的にかなり好調で、一部出荷の後ろ倒しや前倒しといったコメントがありますが、2Q 以降の見通しについて、解説をお願いしますか。

**A:** まず、この 1Q は、期ずれによって売上が集中したという部分も一部ございますが、それ以上に、その影響以外の各種の要因によりまして、好調だったと考えております。

2Q 以降については、1Q からの期ずれ等の影響が、若干マイナス要因として出てきますが、大きな影響はないと考えております。

**Q:** 1Q の期ずれ以外の販売好調の要因は、こういった内容でしょうか。

**A:** グレーシアについては、当初想定以上に良い形で流通在庫の解消が進みました。海外向けのタルガ等は、混合剤含めて需要が好調であり、業績予想より上ぶれました。

## <質問者 2>

**Q**：農業化学品について、1Q は予想比で大きく上ぶれましたが、この上ぶれを値上げと数量増加とに分けてご解説頂きたいです。

**A**：上ぶれの要因の中で、値上げの影響が一部ラウンドアップ等では効いてきていますが、それ以上に数量増加の影響が大きかったという認識です。ラウンドアップ以外の国内農薬については、これから値上げの交渉を行いますので、値上げの効果が出てくるのは12月以降となります。

**Q**：フルララネルの1QのYoYは、年間の当初計画と比較して強い数字となっていますが、足元の感触としては、年間で見たとときに当初計画を上ぶれてきそうでしょうか。

**A**：フルララネルの1Q実績につきましては、原薬の出荷はほぼ当初の予想通りで、ロイヤリティで業績予想を若干上ぶれました。もともと当初計画でも1Qでは強いYOY伸び率を見込んでいましたので、大きなサプライズはなく、現時点では通期の見通しに変更はありません。今後、11月の中間発表などで、下期予想の見直しをしながら、最新の見通しをお示ししていくことになると思います。

**Q**：もう一点、今回2Q以降の想定為替レートが据え置かれていますが、為替感応度を教えていただけないでしょうか。

**A**：為替感応度につきましては、年間ベースで、いわゆる輸出引く輸入のインバランス部分が、会社全体として3億ドルほどございます。したがって、対ドルで1円円安に動けば3億円利益方向に効くというのが、通期での数字ということでございます。

## <質問者 3>

**Q**：化学品に関して、硝酸プラントのトラブルの損失影響があったにもかかわらず、業績予想比で1億円上ぶれています。各製品の販売価格上昇がかなり寄与したのでしょうか。

**A**：ご認識の通り、化学品全体として、売値の上昇が利益に相当寄与しました。

**Q**：販売価格の継続性については、どのように見ていらっしゃいますか。

**A**：アンモニア関連製品につきましては、今後とも販売価格は高水準で維持すると見ております。

**Q**：ディスプレイ材料に関して、事業環境が厳しい中でも光IPSが上ぶれたことについて、もう少し解説いただけますか。

**A**：1Qの実績で申し上げますと、ラビングIPSから光IPSへの転換が、当初想定通りあるいはそれ以上に、少しずつ進んでいるということかと思えます。

#### <質問者 4>

**Q**：農薬の価格動向について、今後の見通しについて解説いただけますか。

**A**：まず国内においては、価格交渉が始まったばかりです。

例年は10月頃に価格が決着するのですが、今年については当社だけでなく各農薬メーカーにて値上げ検討案件が非常に多いということもあり、例年よりも価格の決着に時間を要するかもしれません。それでも12月からは新価格になると見ております。

ラウンドアップに関しましては、今年度の価格は既に値上げ済みですが、必要に応じてさらなる検討を進めてまいります。

一方、海外に関しましては、もう既に主要品目の数案件は値上げ済みです。まだ未対応の品目、あるいは地域、国においても、順次対応していく予定です。

**Q**：御社は、フルラネルを除くと、国内の同業他社の中で国内向け販売の比率が高いと理解していましたが、正しいでしょうか。

**A**：はい。正しいです。

#### <質問者 5>

**Q**：農業化学品について、1Qはライメイがかなり増えていましたが、通期でも好調を維持するのでしょうか。現時点の見通しを教えてください。

**A**：ライメイに関しては、原体の供給が様々な要因により順調でして、特に、豪州・インド・ベトナム等で拡販が成功しています。これは一時的な話ではなく、通年で、好調を維持すると見ております。

**Q**：一方、タルガについては、これは一部2Qからの前倒しということなので、2Qは反動で少し落ち込むのでしょうか。

**A**：タルガに関しては、一部時期ずれもございますが、現状では年間の業績予想は達成できると考えております。インドや、EUの一部の国、スロバキア、バルト三国等で拡販を目指して活動しております。

**Q**：ライメイとタルガの話を合わせますと、この2Q以降、農業化学品セグメントの業績予想は据え置かれていますが、実際にはライメイなどの上ぶれも期待できると理解してよろしいですか。

**A**：はい。一部では期待ができると認識しております。

**Q**：ディスプレイ材料に関して、今回年間の計画を減額されていますが、どのような用途で調整を見ているのか教えてください。

**A**：アプリケーションで言いますと、主にスマホ、それから大型テレビ、こちらの下方修正の影響が大きいと見ております。

以上